

# 医院・診療所便り

～病院との連携について～



岡本医院  
院長  
岡本 章

康生会武田病院とは古くから連携をとっており、地域連携室を通してきっちりに対応してもらっています。最近も私どもの医院で診ていました高齢の患者さんが、全身状態が悪くなったため、武田病院に急ぎ入院してもらいました。先日、見舞いに行きましたが、安心して治療を受けておられるようで、家族も安心しておられます。

主治医の先生(内科)にも医局で会って、患者さんのカルテを見ながら細かく病態や治療状況を聞かせてもらいました。急性期病院で大変忙しいようでしたが、時間を割いていただいて今後の患者さんの治療のことなどについても説明してくれ、こちらが恐縮する思いでした。

康生会武田病院は医仁会武田総合病院や医道会十条病院など、グループ病院としての機能分担もやっておられ、診断や治療の難しい疾患や患者さんへの受け入れについ

ても安心してまかせられ、これからも連携を密にしていきたいと考えています。

私どもの医院は九条から十条、とくに陶化地域の皆さんとの結びつきが深く、私で三代目になります。私の祖父は産婦人科医で、昔は人力車が土間にありました。向かいに車夫さんがいて、難産の時のみ産婆さんと一緒に往診へ行って取り上げていたとのことでした。

父は8年間、軍医として戦争に借り出され、祖父から継いだ後、70歳で引退を表明し、長男の私に「これからはおまえが地域医療に尽くすように」と言って、以後は診察室には顔を見せなくなりました。厳格というか、はっきりした人でした。父から引き継いだ時には、まだレントゲン室もなく、拡張を重ねて今のような診察室になりました。私も今年70歳になるため、勤務医をしている義理の息子に跡継ぎを頼んでいます。一応、受諾をしてくれましたが、「まだまだ現役でやれますよ」と言われております。

診察科目は父の時から内科、外科ですが、診察に来られた患者さんに対しては、プライマリ（初期診断）に関してはすべて応じるようにしています。

東和小学校の校医をしている関係もありますし、陶化小学校、陶化中学校と進みましましたので、子供のころからの遊び友達など、この地域にはたくさんの知人がいます。その人たちも大部分が、何かあれば当院を頼りにして

くれていると思います。地域の皆さんと共にある医療機関との自負をいつも忘れずに診療業務に当たっているつもりです。

陶化地域も市中心部と同じように高齢化が進んでおり、午前診を済ませると午後からはなるべくお年寄り宅を回るようにしています。個人をしっかりと診て、フォローすることで早期発見や確実な治療につながるように努めています。また、疾患や患者さんの状態について、自分ができないこと、判断の範囲外のことには康生会武田病院に専門の医師がおられるため、相談や紹介することにはしています。これからもお世話になることと思います。よろしくお祈りします。



〒601-8028  
京都市南区東九条東御堂町2  
TEL 075-661-1011  
診療科目：外科、内科

## 地域医療 連携室から

昨年11月4日、「ホテルグランヴィア京都」におきまして、病診連携と医療技術向上のための「第17回症例検討会」を開催、下西医師会会員の医院や診療所、また他地区を合わせて計70名の先生方が参加され、当院が症例実績を誇ります心臓疾患などの循環器領域、癌手術、病診連携に関して熱心な討議が行われました。

閉会に先立ちまして、当院の武田隆司院長より、当院は急性期病院として平均在院日数の短縮を目指し、目標を達成できたこと、現在、患者さまの安全性と快適性を追求したシステムを構築中で、そのためには先生方のご協力が不可欠であること、昨年秋にオープンいたしましたPET・CT2機のご利用についてのご案内をさせていただきました。

武田病院では、地域の諸先生方のさらなる信頼をいただき、急性期医療および高度先進医療の充実を図っていくことを目的として、外来診療の運営方法を見直しました。その内容は、午前診、午後診の急病、専門外来の充実を図っていく、従来の夜診を午前診、午後診に振り替える、本年1月1日より夜診の時間帯におきまして、救急や急病の患者さま、また先生方よりご紹介いただきました患者さまを中心に診察させていただく、というものです。これに伴い、先生方との連携をより一層密度の濃いものにしていく必要性から、地域医療連携室の機能をさらに強化していく所存です。つきましては、現在夜診受診中の患者さまに対しては、ご迷惑をおかけすることなく、ご希望に合わせてご紹介させていただきます。何卒、ご理解のうえ、ご了承いただきますよう、お願い申し上げます。

最後に、睡眠時無呼吸は、昼間の眠気のみではなく高血圧等の生活習慣病との関連または生活習慣病の一つとも考えられています。平成17年3月24日(木) 帝人ファーマ(株)主催により京都キャンパスプラザにて行われる「睡眠時無呼吸と生活習慣病・社会リスクを考える全国セミナー」において、康生会武田病院顧問 久野健志先生、医仁会武田総合病院耳鼻咽喉科部長 中川浩伸先生が講演されます。武田病院地域医療連携室では、今後このように刻々と変化する医療環境に関する情報や講演会などのご案内を紙上でお伝えしてまいります。また、先生方からのご質問も受け付け、当連携室または担当者よりお答えさせていただきます。何卒、ご遠慮なくお気軽にお問い合わせください。

医療法人 財団 康生会 武田病院

(連絡先) 地域医療連携室

TEL 075(361)1352(直) / FAX 075(361)1337

E-mail renkei-e@takedahp.or.jp URL http://www.takedahp.or.jp/

検査予約センター

TEL 075(351)1132(直) / FAX 075(361)1337

室長：松山 則彦



# たけだメディカルニュース

Vol.19 発行日 平成17年2月28日

理念	
思いやりの心	
基本方針	環境方針
ブリッジ・ザ・ギャップス 患者さんの権利の尊重 信頼の医療に向けて 地球にやさしい環境づくり	省資源・省エネルギー 廃棄物の減量化 リサイクルの推進 安全性・快適性の推進 環境広報活動の推進

発行 武田病院グループ  
京都市下京区塩小路通西洞院東入ル  
TEL 075-361-1351(代)  
発行人 武田 隆久

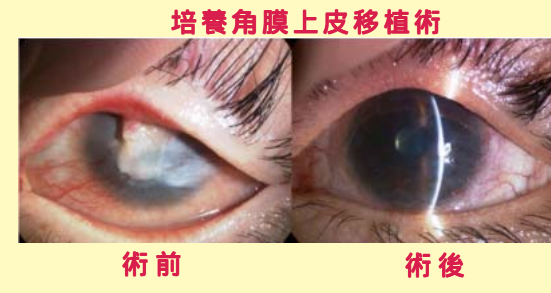
## 医療法人財団康生会 武田病院 眼科 特集

### 眼科領域の 先端医療

#### 培養角膜上皮移植術

眼の表面に強い炎症があり、角膜上皮ステムセルがなくなってしまうと角膜移植もできません。その治療法の一つとして角膜上皮の幹細胞を移植する方法があります。片方だけが障害されている時には、もう一方の角膜上皮が使えるのですが、両目がだめな場合には他人の角膜上皮を用います。しかし、拒否反応による免疫抑制が必要なため、平成11年に、京都府立医科大学で世界に先駆けて口腔粘膜上皮を用いる方法を開発しました。羊膜をキャリアーとして使い、患者さんの口腔粘膜上皮のステムセルを培養し、人工的にシートをつくる方法です。

これによって全く見えなかった人が、視力0.03～0.05程度まで回復し、自分で歩け、日常生活もできるようになりました。現在、大学倫理委員会の承認のもとに、愛媛大学、東京歯科大学への供給も始めています。



#### オルソケラトロジー（新近視矯正法）

角膜は比較的柔軟であり、鑄型のようなコンタクトレンズを用いて角膜の真ん中を扁平なようにする治療法で、角膜の中心が平らになれば凹レンズをつけたのと同じ効果が得られ近視が治ります。睡眠中に角膜の屈折力が減少して正常化され、翌朝はレンズをはずし、日中は裸眼で過ごせます。日本では現在、クリニカルトライアルを6施設で実施しているところで、我々3人が臨床試験の総合的な責任者になっています。京都府立医科大学としても角膜の柔らかい10代の人を対象に実施しています。

現在、エキシマレーザー治療の方が安全できっちりの手術が

#### 京都府立医科大学大学院 眼科学教授 木下 茂



可能になっています。アメリカでは年間150万件、日本でも昨年7万例に実施されており、米国のプロゴルファーのタイガー・ウッズをはじめ、日本のゴルファーも数多く手術しています。

#### 屈折矯正手術

近視や乱視の屈折異常を矯正する手術で、エキシマレーザーを用いる方法が1980年代に米国などで開発されました。その中でも、レーシック(LASIK)は、術後の痛みが少なく、視力回復も早い技術で、まず、マイクロケラトームという鉋のような機器で角膜を層状に切開してフラップ(角膜弁)を作ります。その後エキシマレーザーで角膜実質だけを削り、最後にフラップを元の位置に戻す術法です。

#### 緑内障、糖尿病性網膜症の増加

緑内障は日本では糖尿病に次ぐ中途失明疾患で、今後、日本は高齢化が進むにつれて、糖尿病性網膜症とともに増える傾向にあります。中でも、眼圧が正常なのに、緑内障と同じような神経変化を起こす「正常眼圧緑内障」という病気が最近注目されています。愛知県多治見市で疫学調査が行われ、70歳以上になれば6、7人に1人の率で発症しています。40歳以上でも3.56%ということがわかりました。

府立医大では網膜神経線維層計測装置や視神経乳頭陥凹定量化装置をスクリーニングや治療経過観察にも用いており、検診を受けることをお勧めします。

糖尿病性網膜症も糖尿病患者の増加とともに増えています。糖尿病性網膜症は血糖値やヘモグロビンA1cの上昇との関係が明確で、血糖の高い時期が10年以上続いた状態で網膜症を発症することが多いのです。いったん発症すると、増殖網膜症に至り硝子体手術などをしなければなりません。出血することは網膜の末梢血管がすでに傷んでいる状態で、内科医も含めて全身検査などを定期的に続ける必要があります。



### 白内障

眼球はよくカメラに喩えられますが、カメラでレンズの役割をする水晶体が混濁した状態が白内障です。年齢的な変化です。50代以降になります。程度はさまざまですが皆さんに見られます。しかし、混濁の進行によって適切な眼鏡をかけても見え方に不自由を感じる場合は手術が必要になります。

手術では混濁した水晶体を超音波で碎きながら取り除き、代わりにピンポイント合わせをしてくれる人工の眼内レンズを挿入します。手術器具や技術の発達により手術の時にできる傷口が3.5mmと非常に小さくなったため術後の痛みもほとんどなく、2〜3時間の安静の後には歩いていただけるようになりました。そのため、全国的にこの数年で通院による白内障手術が急速に広まってきました。

当院の患者さまの中にも、ご家族のお世話のために夜間は家をあけられない、店の電話番号をしなければいけない、枕が変わると眠れない、などの理由で通院手術を希望される患者さまがいらっしゃいますので、2004年11月より通院による白内障手術をはじめました。

通院手術では午前中に手術を行い、病室で数時間安静にしていた後に異常がなければ眼帯をしたまま自宅に戻っていただきます。翌日からは術後診察のために通院が必要ですが、軽い家事等は可能です。しかし、入院手術も通院手術も手術内容は全く同じです。通院手術の場合は術後の点眼や内服の自己管理、術後数日間の通院が可能である等の条件が必要です。逆に足が痛いとかもう片方の目も見えにくい等の理由で通院が困難であったり、内科的疾患のために手術前後の体調管理に不安がある等の場合には入院手術が適しています。患者さまのご希望と全身状態、眼の状態を考慮して入院・通院のどちらが適しているかを選択していただければ幸いです。

### 糖尿病網膜症

糖尿病の3大合併症の一つである糖尿病網膜症は日本人の中途失明原因の第1位です。血糖の高い状態が数年続くと血管内皮細胞の障害によって網膜の血流障害が起こり、異常な新生血管による硝子体出血、新生血管緑内障や増殖組織による牽引性網膜剥離により失明にいたりします。適切な時期に治療をしないと失明にいたることは少なくなりますが、重症化するまでは自覚症状がないので発見のためには眼科受診が必要です。一番の予防、治療は血糖コントロールですが、糖尿病の期間が長くなると血糖値が下がった後にも網膜症のみが進行する事があるため現在の血糖コントロールが良好な方も定期的な診察が必要です。眼科では眼底検査や蛍光眼底造影検査を行い眼底の血流を評価して、重症化してしまつた方に対してはさらなる進行を抑える目的でレーザー光線による光凝固を行います。光凝固で網膜症の沈静化が得られない場合には、硝子体手術等が必要となる場合があります。京都府立医科大学の網膜硝子体専門の医師と連携して最善の治療法を選択します。



成人正常網膜



糖尿病網膜症

資料提供：JOPS 日本眼科写真協会

### 緑内障

緑内障は眼球がとらえた情報を脳に伝える視神経が障害される病気で、いろいろな病型がありますが慢性的に進行する開放隅角緑内障は日本人の40歳以上の人口の30人に1人の割合で見られます。この病気の難しいところは自覚症状が出にくい事と一度障害された神経はもとに戻らないという事です。治療せずに進行すると失明にいたることもあり、早期発見と適切な治療が大切です。この開放隅角緑内障の早期発見のためには眼底検査で特徴的な視神経乳頭の陥凹を見つけて、視野検査で異常を検出する必要があります。当院では眼底検査に引き続いて随時、自動静的視野計で検査を行い早期発見に努めています。また、進行例に対しては視能訓練士による動的視野検査で視野全体の評価を行い、病状に合わせた治療を行っています。



正常視神経乳頭



視神経陥凹

資料提供：JOPS 日本眼科写真協会

### 斜視弱視、外眼部疾患

斜視とは左右の視線の合わない状態です。成人の斜視については眼精疲労を引き起こしたり、外見上のストレスとなることがあり、病状と患者様の希望にそつて手術を行っています。小児の斜視や屈折異常は程度が強いと視力の発育が遅れて眼鏡をしても視力の出にくい弱視となつたり、両眼で見る力が十分に発育しない事があります。適切な時期に眼鏡装用や遮蔽訓練を行う事により視機能の発達を補助できるため、当院では小児の斜視、弱視治療にも積極的に取り組んでいます。また、高齢者の眼瞼下垂や内反症の手術も行つており視機能の改善に加えて整容効果もあることから喜ばれています。

### コンタクトレンズ

月初めの水曜日にコンタクトレンズ外来を開設して、ハードコンタクトレンズの新作、調整を行っています。通常のソフトコンタクトレンズ、使い捨てコンタクトレンズのトライアルレンズ（試用）は常に用意していますので他の曜日でもご希望に合わせて対応しています。

### 開業医さんへ

白内障手術については日帰り、入院のいずれでも選択していただけます。患者さまのお体や眼の状態を先生方のご判断の上、ご紹介いただければできる限り患者さまのご希望に添うように対応させていただきます。また、眼底検査、視野検査は随時行っておりますので、糖尿病の精査、緑内障の視野検査は初診時にスクリーニング可能です。視能訓練士も常勤しており眼球運動や斜視、弱視の診察、治療にも取り組んでいます。

### 武田病院 眼科 外来診療担当医表

	月	火	水	木	金	土
午前	横井	上野	清水	鄭	清水	
午後			14~16 清水		14~16 清水	



### プロフィール

康生会 武田病院 眼科

清水 有紀子 (しみず ゆきこ)

- 1999年 大阪市立大学医学部卒業
- 京都府立医科大学眼科学教室入局
- 2001年 京都市立病院眼科
- 2004年より武田病院眼科
- 日本眼科学会認定眼科専門医